

「令和6年度第1回 旭川市包括的支援体制整備検討会」会議録要旨

<概要>

- 1 日 時 令和6年10月24日(木) 18時30分から20時30分まで
- 2 場 所 旭川市総合庁舎7階(旭川市7条通9丁目)会議室B
- 3 参加者 11名
- 4 事務局
 - 旭川市福祉保険部
 - ・ 福祉保険課
福祉保険部次長(福祉保険課長), 福祉保険課主幹(地域福祉係長)
地域福祉係主査, 地域福祉係員
 - ・ 長寿社会課
長寿社会課長補佐(高齢者支援係長)
 - 旭川市社会福祉協議会(市社協)地域共生課
 - ・ 地域共生課長補佐(統括支援員)
地域まるごと支援員(支援員A~D【A~D各地域の担当者】)

<会議録>

- 1 開会
定刻により,事務局から開会を宣言する。開会にあたり,市福祉保険部次長から開会の挨拶を行った。
- 2 参加者紹介
市福祉保険課主幹より,本日の参加者の紹介及び欠席者を報告するとともに,検討会庶務担当(市福祉保険課)の紹介を行った。
- 3 進行役選出
参加者の互選により,F氏が進行役を担うことになった。
- 4 議題
 - (1) 会議のルールについて
 - ・ 令和6年度旭川市包括的支援体制整備検討会(以下「検討会」という。)の会議ルールについて,資料3-1に基づき市福祉保険課地域福祉係員から説明。説明に対する参加者からの疑義や意見等はなく,資料3-1のとおり会議を実施することを参加者間で確認した。
 - ・ 資料3-2,資料3-3に基づき市福祉保険課地域福祉係員から本検討会に係る市の事業実施体制・趣旨等について説明。説明に対する参加者からの疑義や意見等はなかった。

(2) 旭川市長寿社会生きがい振興事業について

市長寿社会課長補佐から本事業概要の説明後、市社協地域共生課長補佐から地区社会福祉協議会における取組の説明を行った。質疑応答・意見交換の内容については次のとおり。

(G氏) ふれあいサロン事業の説明について、子育て世帯の親子を対象としたサロンはいくつあるのか？

(市社協地域共生課長補佐)

市社協で把握する 136 のふれあいサロンのうち、子育て中の親子を対象としたサロンは市内各地区に 11 か所となっている。子育てサロンに参加する方だけの人数というのは把握していないが、サロン全体での延べ参加者は 4 万人を越えている。

(G氏) この 11 か所のサロンの中に NPO サポートセンターで開催しているサロンは含まれていないのか？

(市社協地域共生課長補佐)

市社協の助成金を活用して実施しているサロンについては、地区ごとに件数や内容を把握しているが、自主事業として取り組んでいる NPO 法人や社会福祉法人、個人で実施しているサロンについては、実態把握として参加することはあるが、全てを把握しきれてはいない。

(H氏) 避難行動要支援者ごとの個別避難計画の策定について、市民委員会や地区社会福祉協議会が中心となり作業し、各町内会と共有していることから、各町内会長や町内にて、誰をどういう形でお助けをしたらいいのかというのがよく分かっている。

先ほどの説明によると、本人による個人情報の提供同意があった方のみ情報を提供してもらえる認識である。実際地域で災害対応訓練や一時避難所の設置訓練を実施すると、誰がいつどこでどういう風に困っているかわからないという課題が出ている。実際に災害が起きても本人が助けてくれと言わない限り、助けることはまず無理である。

そういった経過も含め、社会福祉協議会の名前でもって、市の防災安全部や、関係機関に名前（個人情報）の提供をお願いしてもらいたい。個人情報を保護しなければならないと言われているが、個人情報を保護しすぎて地域の活動にも制限が出てきている。

地域の防災組織としては減災すること、被害を少なくすることを目標として取り組んでいるため、非公表的な個人情報について、どこまでが本当に公表できないのかどうか、その辺を含めて社会福祉協議会の方で吟味していただきたい。

(市福祉保険部次長)

法律上、本人同意がないものについては公表できないこととなっており、避難行動要支援者名簿の作成にあたって個人情報については情報提供できないことはご理解いただきたい。しかし、個人情報の提供については課題であると認識しているため、本市としても個人情報の提供を了承していただければ災害時に活用できるということを広く周知し、理解を得たうえで情報提供をしていきたいと考えている。

もし災害時に支援を要する方と接触できている場合には、市役所の方から個人情報の提供同意に関する手紙が行っているはずだをご説明いただき、そこで個人情報の同意の了承を得ていただければ、町内会や地区社協が災害時への対策に向けて動けるようになる。個人情報の提供に関してご理解をいただき、提供に同意していただければ、もう一度同意書を送付させていただこうと考えているので、今後についても適宜情報交換していく等、協力体制を築いていきたいと考えている。

(I氏)

安心見守り事業自体が減少しているということで、個人情報をこれだけ制限された中で、従来のやり方をそのまま続けていけば、さらに地域での見守りが減少していくと思われる。

地域のつながりが希薄になっていることも含めて課題であると認識しており、私自身住む町内でも、実際に見守りができる人が他にいないのかと調べてみようと思ったとしても、地域に住む方の名簿自体が存在しないため調べることもできない。

町内における横のつながりが以前に比べて希薄化している中で、どのようにしていけばいいのかというところが他の町内でも困っているんじゃないかと想像される。

そういった面からも安心見守り事業の減少傾向がさらに続いていくと考えるため、事業として成り立たなくなってくるのではないかという気がする。

そのような危惧を市としても抱いているのであれば、市としても個人情報に関する規則があるのであれば、それに対してどう対応していくのかという方策を社協さんと含めて考えていく必要があると考える。

(市社協地域共生課長補佐)

見守り対象者の名簿作成にあたって、地区によっては避難行動要支援者名簿を取得し、対象者の自宅を個別訪問して、環境や世帯状況の確認、何に困っているのかを尋ねて回っている地区もある。そこから、災害時だけではなく普段の見守りが必要な方であれば、見守りの対象者として名簿に加えるという新しい取り組みを始めているところもある。

(J氏)

安心見守り事業とふれあいサロン事業、それぞれ48か所、ふれあいサロンだと136か所設置されている。今後事業を継続的に実施していくうえで、社協が大元の事務局だと思うが、それぞれの地区に1か所1か所に何か事務局みたいなものはあるのか？それとも地区に事務局はなく、市民委員会の会長さんが中心になって実施しているのか？どういった運用をしているのか教えていただきたい。

(市社協地域共生課長補佐)

市内全域を53の地区に分け、活動休止中の2地区を除くそれぞれに地区社協があり、事業の実施にあたっては、地区社協が中心となって見守りやサロンなどの地域福祉活動に取り組んでいる状況。

地区社協の財源は、市社協からの助成金や自己財源を活用しているため、活動や運営のための事務局があり、取組や費用負担などの事業報告を市社協へ行っている。市社協では内容の取りまとめを行っている形式になっている。

また、地区社協から各町内会に事業の実施を依頼している地区もあるが、地域のつながりづくりに向けた取組として実情を把握し、町内会からの報告を受けるといって地区社協と町内会が連動した仕組みの地区もある。

(3) 生活支援体制整備事業における第2層生活支援コーディネーターの取組について

重層的支援体制整備事業として実施する「地域づくり」に関する事業のうち、生活支援体制整備事業における第2層生活支援コーディネーター(=地域まるごと支援員)からA～D各地域の取組に係る説明を行った。質疑応答・意見交換の内容については次のとおり。

(H氏)

A地区の方にお金の関係で伺いたい。私もまちづくり推進協議会にて子ども食堂を2か所運営し、それぞれ3万円と8万円と費用がかかった。運営に際してはボランティアは必要不可欠で、担い手がいなくなると終わってしまう。

A地区の取組に関して資料には費用が書かれていないが、運営に際して費用は

かかってくると思う。お米の調達等も最近すごい大変だと思うが、その辺どのよう
に解決しているのか。

(支援員A) 活動資金の財源は、まちづくり推進協議会の補助金と、イオンの黄色いレシート
財源になっている。

(H氏) 子ども食堂に関して、子どもから参加料はいくら取っているのか。

(支援員A) 今回の取組では子ども食堂は実施しておらず、集まるだけである。

(G氏) A地区の説明にあった協議事項で、目的の中に放課後に子どもたちが気軽に通え
る居場所づくりとあるが、開催している曜日はいつか？

(支援員A) 月に2回開催し、水曜日の放課後3時半から5時まで開催している。夏休みはも
う少し早い時間から開けるかと思う。

(G氏) 今後、放課後に毎日こういう取組を開催するという計画はあるか？

(支援員A) 今のところはない。月に2回の開催で進めている。

(I氏) B地域の経過のところ、10年間引きこもっていたが、支援員が介入し一人暮
らしを始めたと記載されているが、10年間引きこもっていて、外に出ていくまで
には、結構時間がかかったのではないかと想像される。

また、一人暮らしを始めた後も色々な支援があったということもあり、実際にそ
の後も、就職活動や金銭管理がうまくいかず自暴自棄になったというところで、ま
ず最初の相談があって、一人暮らしをはじめたまでにどれくらいの期間がかかっ
ていたのかということと、一人暮らし開始後のフォローみたいな形で、どれくらい
の頻度で本人や家族と関わりがあったのかを聞かせていただきたい。

(支援員B) 私自身は今年度からこの方が既に一人暮らしを始めているところから関わった
経過がある。

(支援員D) 前任の私から説明させていただく。

10年間、2世帯住居の実家で父親と本人が1階と2階に分かれて生活していた

ところから支援が始まっている。引きこもっていた本人が、もうダメになると思った瞬間と、私たちまるごと支援員が訪問した瞬間が合致したこと、そして父からこのままでどうする、こんな生活していてどうするつもりだと、言われ続けていたタイミングが重なったことで介入することができたと感じている。

まるごと支援員が初めて訪問する3年程前に、父親は市に相談しており、市職員と包括支援センターの職員が一度訪問したとのこと。当時の支援者は、本人に何かあったら困ると話し、本人への声掛けや接触なく帰ったと父親から聞いている。

それから3年、父親は説得を続けてきたが、本人はそれに耐えきれなくなってきたところに、まるごと支援員と包括支援センターの職員が訪問し、本人の部屋に向かって「話しませんか？」と声を掛けたところ「します！」と返事があった。支援者の一言がきっかけになったが、本人のSOSのタイミングと合致し、部屋から出ることが出来たと思われる。

自室のある2階は全てゴミ袋で埋まっていたことと、父親の前では話がしづらいいということから、本人と車の中で話を行い今後の関わりを希望される。父親も本人が出てきたことに驚き、そのまま私たちに支援を委ねてくれたという経緯である。

その後は、常にまるごと支援員2人で自宅を訪問し、本人と父親両者の思いを別々に聞き、地域包括支援センターと連携をしながら、父親の支援は包括、本人の支援はまるごとと役割分担をしながら関わりを深めていった。

2階の部屋について『ゴミを片付けて綺麗になったら、家を出て自立する』と目標を決め、2ヶ月でそのゴミを全て始末。一人でやりとげたことで、自立した生活ができると自信を深め、生活保護を受けながら仕事を探し、現在のお部屋を借りて生活を始めている。しかし、早々に金銭管理がうまくできず、1年目にして借金が膨らむ状況となってしまった。まるごと支援員にも怒られると思い事実を話せなくなり、現在は担当を交代しているが、生活は継続しており本人の頑張りは大きい。

経過を踏まえると、引きこもっていてもこのままではいけないと感じ、どこかでチャンスやタイミングを見計らっていると思う。今回はたまたまタイミングが合ったが、声をかけないで待つという大事な時期もありつつ、声をかけなくてはいけない場面もあると支援を通じて学んだ部分があった。

(F氏) 本当にきっかけが大事だということで、期間的にはタイミングがマッチしてから、その後の支援までのつながりの期間がスピーディーだったのかなと思う。

(支援員D) 夏の終わりごろから支援が始まり、雪が降る前に部屋の片付けを終えた。お正月

は父親を一人にすることを心配し、雪が解け暖かくなってから家を出るという段取りであった。

(F氏) ある程度放っておく時期も大事だということと、今だっていうタイミングがあるということ、非常に効果的である時期が今だっていうタイミングについて、そのタイミングがどういう状況なのか、どのような様子なのか、感じ取れたものはあったか？

(支援員D) 今まで支援してきた人も含めて、どの方もこれだというタイミングはわからない。ドアを開けて部屋から出てきくれた方々が割合的に多かったが、どうしてそうになっているのか私自身よく分かっていない。

たまたまのタイミングで話しませんかとか、名前を叫んでみたらドアが開いたという感じである。ドアが開けばチャンスを生かしたいので、「このままでいいのか」と声掛けし、「どうにかしたい」と答えてくれた。このままではいけないと本人が思っているからドアが開いたのだと思う。

(H氏) C地域担当の方にもお聞きしたい。

資料に書いてあるとおり、年末が迫るタイミングでお姉さんが栄養失調で倒れてしまったことがあって、そのタイミングで弟へ支援介入できたという、世帯にとってまさにぴったりのタイミングだったと思う。一步間違えると危なかった、生活に困窮していたということは灯油もなかったのではないかと推測される。灯油を買うお金は町内会から出たのか？

(支援員C) 灯油を買うお金については、私が実際に訪問した際に、このままではどう考えても死んでしまうから、市役所に行こうと言ったところ、来てくれたので市役所の生活つなぎ資金を借りることができた。灯油については、家にポータブルストーブがなかったため、その日のうちに社協に電話し、被災者用のポータブルストーブを借り、本人と一緒に借りたお金で灯油を入れて何とか過ごした。本人はかなり長い間生活困窮していたようで、何千円かで年末まで過ごせるかと聞いたところ、1日100円でも十分ですっていうぐらい困窮をされていたので、タイミングでいえば本人が本当に限界で、誰にも助けを求められなかった状況であった。

別の事例で、私が2年間通い続けた方がおり、お金が尽きてようやく動き出し、家に入れてくれたやごみ屋敷の方もいらっしゃるので、本当に本人が困ったときにその場に居合わせるために継続的に関わる必要はあると考える。

(4) 地域課題に係る意見交換

(3) におけるA～D地域の発表のうち「ふりーすぺーす・すずかけ」について議論を深めることとなった。質疑応答・意見交換の内容については次のとおり。

(H氏) すずかけは地域のみんなが集まることができる場所にしてあったと思う。
地域住民が会合を開くための場所にしてあったが、それが急になくなってしまった。その場を使ってフリースペースとしての取り組みを始めたのか？

(支援員D) 市社会福祉協議会では、平成17年にすずかけを拠点として、グループホームとデイサービスを1階で開催、2階では地域福祉事活動の拠点として地域に解放していた。そのすずかけを『地域福祉活動拠点すずかけ』という名前で運営している。

令和4年度にその介護保険施設事業を中止したことに伴い、2年間ほど施設自体の活用は地域の福祉活動など限定的なものになっていたが、令和6年度の4月から、まるごと支援員が増員になったことをきっかけとして、5条事務所とすずかけの2階を事務所として、まるごと支援員が半分に分かれて仕事をしている。

1階のスペースは、活動拠点として無償で地縁組織やボランティア団体にお貸ししており、貸館事業は継続しつつ、空いている月曜日を毎週フリースペースとして開催してみようというところが始まりである。

(F氏) 今ご説明いただきました、すずかけを活用した新たな取り組みとしてフリースペースを開設したということで、先ほどのB地域の方もすずかけのこのスペースに通い始めているとことだったので、新たな活動が始まり、動き出していることも踏まえ、改めて本日の議題、地域課題に関わる意見交換として、D地域での取組に関する意見交換をしていきたいと考えている。

(地域福祉係主査) フリースペースすずかけについて、皆様からお声をお聞きしたいなと思っている理由が、私個人としてすごい取り組みだと思っている。

しかし、市の事業でやっている中で、引きこもりがちでなかなか外に出られない人が集まって、自分の好きなことをしたり、人によってはそこで新たなきっかけを見つけたり、人によってはゆっくりそこで色々とすることが必要なのか、その人によって様々であるが、目に見える成果というか、数字では中々表しづらいものだと思っている。理屈で積み上げてこれがいいってなかなか言いづらいところもあり、皆さんの声を聞きたいなって思いがあったところなので意見交換の議題とさせていただいた。

(I氏)

子どもの居場所づくりだとか、サロンみたいなものと違い、普通に生活している支援対象者さんの方が集まる場を作るというのは、今までにない斬新というか、新鮮な取組であると感じている。そういった中で、支援員の方々がそういう断続的に適切な対応をしながら、支援対象者の社会復帰に向かえるという意味では、大変いいスペースではないかなと思う。自然体で何もしなくてもいいし、何をしてもいいという、そういった場所というのはなかなかないと思われたので、すごく聞いていてすごいなという気持ちを持っている。この取組をもう少し広げてみてもいいかなと感じる。

(H氏)

もう少しこの取組をPRしたらいいと思う。

すずかけそのものを廃止する時、地域住民として真剣にどうしたらいいと考えたが、こんなに素晴らしい使い方があるとは思っていなかった。本当にPRすべきだと思う。

ふりーすペーす・すずかけについては、一人来たよ、二人来たよっていうような、何人来たよっていうデータでいいのではないかなと思う。

(地域福祉係主査)

PR していったらいいというのは、すごくありがたいお言葉である一方で、まると支援員の今の体制だけではなかなか難しいというところも考えている。

単発1回はできるが、継続してやるのが難しいというのもすごい大事な要素だと考えるため、要素を天秤にかけながら、また応援を背に受けながら、検討を進めていき、まると支援員と一緒に考えていけたらなというふうに考えている。

(K氏)

私どものところでは生活困窮者の支援を行っており、ふりーすペーす・すずかけにも私たちが支援している相談者の方が行かせていただいております、家族で何回も利用させていただいている方もいる。その方はコロナの前はいろいろ私どもの事業に来ていただいていた、ひきこもりと言われている状況から少し出てきていたが、コロナ禍を挟み、なかなか外に出てこなくなったところ、ちょうどすずかけの近くにお家があるため、地域まると支援員が声をかけてくださった。その方は20代前半の男性だが、パソコンとか機械の操作が得意なことから、「ちょっと手伝って」と声をかけてくださったのをきっかけに毎回すずかけに来て、ゲームのネットをつないだり、そういうのをきっかけに毎回行かせていただいている。やはり20代を超えてひきこもりと言われている方は周りの人から就労、就労と言われていると思うが、その方たちにとっては、家から出ると就労との間には、私たちが思うよりも長い道のりがある。その道のりを埋めるために、やっぱりこういったスペース、

こういった場所がすごく必要だと思う。私も何回か行かせていただき、職場に帰らないでずっとここにいたいな思わせる場所であるため、ぜひ続けていただきたいと思う。

ただ、やはり場所が中心部から遠いので、どういう方法があるか分からないが、中心部まで出てきたら送迎があるとか、何かあればもうちょっと行きやすくなるのかなと考える。支援者としては、場所に慣れるまで一緒に行きたいと考えているが、他の業務もあり難しい。もっと他にもここに行きたいなという人がいると思うんですけども、一緒に行くことができず中々叶わない。

そのところは私たちも悩みながら、これからも連携させていただき、ふりーすペーすを続けていただきたいなと思っています。

(I氏) 場所はすずかけがいい？事業を拡大するという事になればすずかけのスペースでは限界があると思う。

(F氏) 市内にもう何か所かかっていうところが整理されたらいいなと思う。

(地域福祉係主査) まだ始めたばかりで、試行錯誤しながらやってるところもあるため、もうちょっと運営してみて、色々な状況を見ながら、考えていきたいと思うが、ひとまずのところとしては、この状態でやっていただいている状況。

(L氏) すずかけがいい場所だということの意見がたくさん出ているが、市内に30数万人もいる都市で1ヵ所だけというのではなくて、例えばA、B、C各地区にそういった場所があった方がいいんだろうと思う。

市内各地区でフリースペースを作るにはどうしたらいいかということはやっぱり考えなきゃいけないのと、まるごと支援員って各地区に2人ずつしかいない中で、まるごと支援員がずっと関わっていくのがいいのか、いずれは誰かに引き継いでいくということをやっつけていかなければならないと思うまるごと支援員の役割を考えたときにも、それを運営する、続けていくということよりも、どう引き継いで継続的にやっていけるかということも考えていかなきゃいけないのかなと考える。

A地区からD地区全部の話聞いていて、ごみ屋敷の問題とか生活環境の話とか、そういった問題は地域にたくさんあるんだと思う。そういう人たちに入っていかなきゃいけないのが、まるごと支援員だと思うので、そこに入っていくためにも運営ということは将来的にどこかに引き継いでいくということを考えていった方がいいかと思う。

(F氏)

7月から始まったということで、まだ経過が短い中ではあるが、恐らくこういった居場所というのを非常に大事にされる方も出てくるだろうし、いるだろうなということが考えられる。

私も精神保健の分野で関わっているケース等で、生活保護受給中で経済的には困っているわけではないが、稼働年齢層ではあるものの、なかなか就労に向かず、ずっと家に引きこもっているというところでは、どこかで何かしたいという思いがあるけれども、行き場所がないというときに家で何か外部とつながるというツールとしてSNSがある。

SNSを通じてトラブルが起きだしたりとか、さらに詳しくなっていくとアフィリエイトみたいな広告収入等のことをいろいろ思いつきだしたり、そこに気づいてしまったりとかということがあり、もう少し可能な限り健全にというところで、こういうふうにならざるを得ない状況で外部とつながりたいというような方である場合は、こういう場所をきっかけにしてほしいなというふうに思う。

私が関わっているケースは特徴的に色々な対人トラブル等を起こしやすいようなケースが多かったりするため、この場所で色々な人が集まったとき、連絡先を気軽に交換し、スペース以外に交流の場を持つきっかけの場にもなるのかなと思う。今後一定のルールみたいなところというのを今後設けるのか、ルールを定めすぎると気軽に参加できなくなるからよし悪しかなとは思いつつも、みんなが気軽に通い続けるためにも、最低限の約束事みたいなものはあった方がいいのかなと思った。現在通われている方で、そういった来ている方々同士で何かトラブル等があったというような出来事等があったら伺いたい。

(支援員D)

懸念はあるが、今のところトラブルはない。

先ほど説明したケースの方は、行き場がないためにスマホによる課金で借金を作っていた。家で誰とも会わずやることもなく、時間が余ってしまう。それを防ぐためにも、すずかけフリースペースを利用しトラブルを避けられるような生活に慣れていっている。

また、フリースペースに来る方々の自己開示は自由で、互いの名前がわからない人もいる。なるべく個人的なことがわからないようにしているのが現状であり、連絡が必要であれば支援者を通じて連絡を取るようにしている。しかし、今来ている方々は個人的に連絡を取り合うことを求めている様子はなく、すずかけフリースペースの中で、誰かと過ごし自分の話を聞いてもらえる人がいるということを探っているのではないかと捉えている。事実を述べているかどうか、相手が本当のことを言っているかどうか分からない。長い付き合いで生活の一部になると、本当

のことを言う必要がでてくるが、今は作業所や学校のようなところではなく、自分を特定されないまま、本当でも嘘でも好きなことを話している場所である。

支援者としては、話を聞きながら一緒に過ごしている程度であるが、それが参加者たちにとっては居心地が良く、安心して過ごしている場所だと感じている。さらけ出せる部分はさらけ出し、抑えるところは抑える、きちんと自分でコントロールができていく状況で関わりができていっていると思っている。

しかし、いずれルールは必要になると考えており、今は支援者それぞれが対象者と密に関わることができているが、人が増えて個々に関わる時間が短くなれば、トラブルが起きる可能性はあると思っている。また、フリースペース開場中、玄関を解放し誰でもいつでも入ってきて構わないとしているため、初めてくる方が多くなれば、ルールを考えていかななくてはと感じている。

(M氏)

今の話に関連して、意見というよりも質問であるが、確かに私も精神の障害の方を見ていたら、全てではないが、その人の社会性等様々なことを考えると、支援者側からは危ういと思う一方で、本人たちにとっては恋愛も含めてすごい挑戦である。支援者側からは偏っているような状況というところはよく見かける。今の居場所づくりの中で、自由に交流するということは、買い物も一緒に行きたいなど思ったら別にルール関係なく出て行ったりとか、そのような時間の過ごし方も認められているということで、そこはルールが決められているのか。

(支援員D)

すずかけフリースペースは、13時から17時の開設で出入りは自由になっている。参加者はソファに座って過ごす時間が大半で、気の合う人や支援者と話し、YouTubeで音楽を聞いたりしながら自分でコントロールして過ごしている。12時半ぐらいに来て、自分たちで飲み物や椅子の準備を始め、16時50分ぐらいから茶碗を洗うなど片付けを行い、最初から最後まで過ごしている状況。

参加者は、まるごと支援員として関わった経緯がある方が利用しているため、前情報もあり、支援者との関係性が出来ているからこそその過ごし方である。しかし、意見のように、既存の参加者と違うタイプの方が来た時の対応は考えていかなければならない。建物の構造上個室もあるので、人と接するのは苦手だがここにいたいという方は個室で過ごすこともできるが、集団になったときの状況は考える必要があると思っている。

頼もしいことは、このすずかけフリースペースで保健師の資格を持つ方が1人ボランティアとして参加してくれている。専門的知識がある方の協力は心強く、専門職の方で関わってくださる方がいると、参加者も支援者にも安心感があり、心強

いと感じている。

(M氏)

居場所ってすごく重要だと思う。

一方で、表裏一体の部分もあり、居場所という安全基地ができると、今度は対人関係でいろいろと挑戦するようになる。ちょっと試してみようとか、恋愛という感情も出てきたりとか、それは悪いことではなくて、居場所があるからこそ、いろいろ挑戦できる。それが必ずしも我々が期待する成長というステップではないと考える場合であった時に、そういうところにも多少寛容になるためには、保健師の存在と連携、それをダメとせず一定のルールで縛る。あとはやっぱりトライアンドエラーで、ステップを登っていく上で、いくつかの専門職の介入っていうところで今後考えていく部分が出てくるのかなと考える。すごく面白いと思う。写真を見たら年代関係なく交わっている感じがあり、そういうところもアピールできると思う。年代関係なく、参加者が気持ちよく関わられたり、グループに入れたり、写真からそういう可能性をすごく感じた。

やっぱり送迎付きで、いろいろな地区から参加してもらえるといい。送迎ってすごい大切かなと思っており、お金とかの問題はあると思うが考えてみてはどうか。我々もそうだと思うが、寒いと行けないのと同じように、送迎があると行ってみようかなとなったり、参加をきっかけに自分の存在が認められ行ってもいいかなと思える場所になったりすると思う。

(N氏)

今年度初めてすずかけの事務所に伺ったが、かなり広いスペースで、居心地のいいスペースというのは間違いないんだろうなというのは認識している。

一方で、まるごと支援員の市内の配置状況、あと業務内容を考えた際、すずかけに1名以上の常駐というのは、結構シビアな状況なんじゃないかとも感じる。

東旭川・千代田地域包括支援センターはA地域にあり、先日も桜岡地区においてまるごと支援員と地域の高齢者などで地域課題についての検討を行った。かなり業務が多忙な中で、この1名以上の常駐というのは、苦慮しながら実践されているのではないかなと感じている。

フリースペースが大事な場所であるということは重々承知しているが、担当の方、職員の負担軽減というものを考えた際に、ボランティアが1名いるという話ではあったが、ボランティア募集の拡大と、すずかけの周知ももちろん同時にしなければならないと思う。先ほどルールの話も出たが、その必要性がどの程度あるのかということも、今後活動を継続していくうえで段階的に検討していく必要があるのかなと いうふう感じた。

(F氏)

ほかに意見等はないか（意見等なし）

市及び地域まるごと支援員の皆様には、本会議でいただいた御意見を、地域づくりの取組に活かしてほしいと思う。

6 その他

- 地域福祉係員から次回の開催，謝礼支払いに係る事務連絡を行った。
- 参加者からの質問等はなかった。

7 閉会